

北海道余市紅志高等学校の行動計画(グローカル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローカル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	地域の農業生産を反映した新教育課程を編成、運用した農業学習、実習に取り組みます。	「地域園芸」科目では札幌心療福祉専門学校連携のもと「農作業手順書」を作成し、実際に町内養護学校生を対象に手順書を活用した農業実習を実施できた。	養護学校生が年度によって該当人数にばらつきがあるため、地域園芸選択生との人数調整に工夫が必要。JA・地域農家等への普及を含めた活動の方を考える。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローカル教育」を行います。	世界へむけた地域の農業学習発信に取り組みます。	JR特急ニセコ号において生産物のミニトマトやジャム、夢の森ワイナリーとのコラボワイン等の販売を行った。さらに国際理解系列と連携し、英語でアナウンス、パンフレット配布を行い、農業学習の発信を実施できた。	海外の方も増えてきていることから、商品のメニュー表に英語表記も必要と考えている。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	地域農業理解推進に取り組みます。	課題研究IIの取り組みにおいて、町内ワイナリーを支える活動として、小学校4校を対象にしたワイン学習の掲示物作成を行った。そのうち、1校には出前授業を行った。	継続した取り組みが必要であるが、連携していいるワイナリーの状況や、取り組みを行う科目の選定等を踏まえた計画を立てる必要がある。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	農業科、商業科の特性を活かした生産ビジネス系列の設置による6次産業化に取り組みます。	余市産の果物を使用したイオン余市店とのコラボスイーツ企画について、プレゼンの実施やポップ制作、店頭販売を行うことができた。	外部連携では商品の考案で終わらせず、商業科と連携しマーケティングの手法を用いた学習を取り入れる。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	地域環境保全へむけた学習に取り組みます。	独立行政法人北海道総合機構中央水産試験場による地域環境学習を実施。	環境学習を踏まえた環境負荷を軽減した持続型農業の実施。	3
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	地域の特産果樹を活用した商品開発に取り組みます。	町内果樹園より規格外のリンゴを提供していただき、スイーツを考案。平川ワイナリーのイベントにおいて、試食提供を行い、参加者の方から講評をいただくことができた。	町内果樹園の規格外品を含めワイン用ブドウの絞りかす等の副原料の用途を調査するとともに、加工利用や活用法など、発展的な学習に取り組んでいく。	3
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	ICTを活用した生産データ、販売データを集約し、新たな価値創造していくための土台づくりに取り組みます。	タブレットとアプリを活用し、商品販売のPOS化を実現できた。また、タブレット利用のため、販売に不慣れな生徒にも使いやすく、金銭ミスの削減など、販売業務効率を上げることができた。	データ集積の継続と活用。	3
	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	津波防災に重点的に取り組み、非常時の防災、減災に取り組みます。	自衛隊による防災講話の実施と、セルフレスキュームの訓練体験を行うことができた。	農業実習時における生徒への周知徹底。野生動物（熊、鹿）出没における安全教育の実施。	3